

令和2年 第8回 (定例会)

厚真町教育委員会会議録

1 開会

令和2年5月28日(木) 午後2時30分

2 閉会

令和2年5月28日(木) 午後4時52分

3 出席委員の氏名

遠藤 秀明 佐藤 泰夫 池川 徹 金光 えり 長門 茂明

4 委員及び傍聴人以外の会議出席者氏名

生涯学習課長 宮下 桂 生涯学習課参事 甫 一樹

5 会議録署名委員の指名

(佐藤 泰夫)

(池川 徹)

6 教育長報告

(1) 行事参加等の動向 (資料1)

(2) 条例又は規則に定める委員の委嘱 (資料2)

(3) 厚真町 ICT 教育推進プロジェクト会議設置要綱 (資料3)

(4) 厚真町教育研究所設立準備委員会設置要綱 (資料4)

【質疑なし】

7 所管報告

学校教育グループ

(1) 令和元年度標準学力調査の結果について (資料5)

(2) 厚真町小中一貫教育推進委員会(4月28日、5月26日)について (資料6)

(3) 5月の校長会・教頭会について (資料7)

社会教育グループ

(1) 新型コロナウイルスの影響で中止が決定した社会教育事業について (資料8)

【質疑】

- 金光委員 : 学力調査についてだが、分析結果や講評は誰が行っているのか。
- 宮下課長 : コメント部分は、教育アドバイザーである。東京書籍の評価システムに基づいている。
- 金光委員 : 例えば1年生と2年生を比較しても、算数の指数が同じ90台でも良好と評価されていたり、されていなかったりとバラバラで統一性がない。保護者もこの結果を見たとしたら気にされると思う。
- 宮下課長 : 今のご指摘を踏まえて、これまでの評価が良いのか。再度検証したい。

8 議 案

議案第1号 令和2年度厚真町育英資金の貸付け(早期貸付)について (資料9)

【質疑】

- 池川委員 : 所得については、世帯主だけの所得を勘案するのか。それとも世帯全体のものか。
- 宮下課長 : 世帯全体である。本来は、6月の教育委員会で本決定を行う。本件は早期貸付に係る仮決定なので、一昨年の所得で仮決定を行い、再度、今後の所得を用いて試算する。
- 遠藤教育長 : 育英資金の貸付は、平成29年から早期貸付を設けた。入学前から早い段階で準備金が必要であること。また、議会からもそのような声が上がっていた。早期貸付の申請に対しては、当該年度の所得がその時点だと確定していないので、一昨年ものを根拠としている。今回、早期貸付については2名の申請があった。次回は、通常の方の申請が加わってくる可能性がある。
- 池川委員 : 所得に応じて貸付金額は変わるのか
- 宮下課長 : 希望次第だが、6万円上限で借りることができる。
- 遠藤教育長 : 控除経費も勘案され、最終的に判断している。
- 池川委員 : 何年償還か。
- 宮下課長 : 借りた期間の3倍以内である。
- 佐藤職務代理 : 昨年は何人いたのか。

- 宮下課長 : 3件である。
- 池川委員 : 良い制度だが、後々の返す大変さを考えれば難しさはある。
- 遠藤教育長 : 現在の社会情勢から考えると、やはり返すことが大変なので希望者が減少してきている。制度上は、本人が申請して保護者が保証人となっていることが多い。
- 宮下課長 : 償還については、たまにずれ込む方はいるが回収不能となっている方はいない。
- 池川委員 : 学力優秀や良好などの表記は何か。
- 宮下課長 : 高等学校の成績証明書の内容である。
- 遠藤教育長 : 基本的には、申請が上がってくる方は学力が高い方が多いと思う。
- 全委員 : 異議なし

9 協 議

(1) 厚真町教育振興基本計画（後期）について

(資料 11)

【質疑】

- 長門委員 : コロナウイルスがまん延する前までは、グローバル社会ということで日本全体が動いてきたが、今はグローバルリズムよりナショナリズムだと言われた。厚真町は APR などの活動を通じて、歴史や文化などをしっかり学んできている。今後さらにもっと深めることができればよいと思う。それらと学校教育がどう結びついていくかはわからないが、一つの意見として考えてもらいたい。
- 遠藤教育長 : ふるさと教育の捉え方が、今後は変わってくる気がする。ノスタルジーな気持ちを高めるだけではなく、ふるさとから得るものを子どもたちに感じとってほしい。
- 金光委員 : ここに出てくる項目の数だけ実行しなければならないと思う。必要がないものはない。例えば年度ごとに、優先項目・重点項目などを考え、メリハリをつけていくべき。
- 遠藤教育長 : 現状の確認作業を行った。お話のとおり、施策ごとについて ABC など色分けしていく必要性はあるかと思う。そうすればその後の検証もしやすい。
- 長門委員 : 厚真高校の特色ある魅力づくりは、ある程度の方向性は見えてきているのか。

宮下課長 : 現状動きだしたところである。3月末に南原校長と話し合いの場を設け、これまでの側方支援に加え、魅力ある取組みを教職員や地域の声を拾いながら行っていきたくいと伝えた。高校サイドからも了承済みである。2回目に教頭のところに訪問した際は、具体的にどう進んでいくか、現場の先生方と協議をしたいと伝え、それについても了承いただいた。その後、教頭からもすでに内々で現場の先生に聞いていただき、いくつか建設的な意見を得た。例えば、一定期間海外研修に参加できるのか、他にも5点ぐらいあった。そういったことを糸口に、町教委としても進めたいと思う。入口に到達した感がある。今は、いろいろな可能性を考えながら進んでいきたい。

10 その他

(1) 厚真中学校におけるふるさと教育の取組について

(資料12)

【質疑】

長門委員 : 中学校3年生の段階で10～14時間程度行うのか。

甫参事 : そうである。

金光委員 : すごく大切なことだと思う。新しく着任した教職員が、ふるさと教育を進めるうえで手本になるものがあることは良い。小学生からカリキュラムに入れていってほしい。

宮下課長 : これについては、小中一貫教育ふるさと部会で組み立てを行っている。総合の時間だけでは足りないので、他教科と横断的に取り組んでいく必要がある。

遠藤教育長 : ふるさと教育を中学生が取り組む上うえで、最終的な報告は3月ぐらいか。

甫参事 : 受験があるので、12月ぐらいをイメージしている。

長門委員 : とても素敵な企画であり、良い取組みだと思う。できれば厚真高校でも取り上げ、ふるさと教育を深めていくことができればさらに良い。

池川委員 : 苫小牧総合経済高校が、特産品を使用し、いろいろと取り組んでいる。厚真高校でも同様な取組みができないか。

宮下課長 : 厚真高校には家庭科クラブがあり、ハスカップを使用して、いろいろなメニューを試行しながら取り組んでいる。

池川委員 : 子どもたちや町外の人たちの意見も、大きなヒントになることがあると思う。

(2) 分散登校の状況・学校の再開等について

(資料13)

【質疑】

遠藤教育長 : 国や道もコロナウイルスとある程度共存していく覚悟を決めた。今後も、衛生管理をしっかり行っていかなければならない。

金光委員 : 学校で子どもたちの様子を見てみると、家にいたいとかお父さんと遊びたいとか反応はいろいろである。通常登校になってもすぐには戻らないかもしれない。

(3) 社会教育施設及び社会教育事業の状況について

【質疑】

池川委員 : 集まりンピックの開催については、2次感染も恐ろしいので今年は見送っても仕方ないかと思う。文化協会のバスツアーはどうなるのか。

甫参事 : 開催するか検討中である。

1 1 次回委員会の開催日程

- ・定例会 6月29日(月) 午後2時30分(予定)

1 2 閉会